

## Case 1

- 35歳、閉経前女性。
- 検診MMGの石灰化を指摘され、ステレオマンモトームで診断されたホルモン陽性DCISで乳房温存療法(Bp)を行った。
- 最終病理結果もDCIS、Vannuys:2 断端陰性である。
- 子供は3人おり、今後の妊娠・出産の希望はない。

## ポイント

- ・35歳、閉経前、現段階では今後の妊娠の希望なし。
  - ・Vannuys 2のDCIS
  - ・ホルモン陽性
- 術後はRTのみ

## Bp後のRTの効果

NSABP B-17

- ・ lumpectomy vs lumpectomy +RT  
→浸潤癌リスク52%減
- ・ 同側の浸潤癌の発生 (観察期間:207months)  
→lumpectomy 19.4% vs lumpectomy +RT 8.9%

乳癌診療ガイドライン  
推奨グレード:A

## 術後照射にTAMが貢献するか

NSABP B-24

		5生率
DCIS	→	97%
lumpectomy		97%

乳癌診療ガイドライン  
推奨グレード:C1

## タモキシフェンの有害事象

- 副作用  
子宮内膜癌、血栓症、更年期症状、高脂血症、脂肪肝  
間質性肺炎、白血球減少、視力障害、高カルシウム血症  
ショック、皮膚粘膜眼症候群、子宮筋腫、内膜症
- 薬価  
タスオミン 74.6 →136万1450円(40万8435円)  
ノルバデックス 369.5 →674万3375円(202万3012.5円)
- コンプライアンス

## 反駁

- TAMはOSに寄与していない。推奨グレード:C1
- 日本人における対側乳癌発症率のデータはない。
- 有害事象のリスクがある。
- 経済的に負担となる。

⇒DCIS部切後の術後療法としては、RTのみが妥当。

## TAM併用がOSに寄与しているか

UKCCCR

OS(n=1694)

RT 2%(5) vs TAM 1%(4)

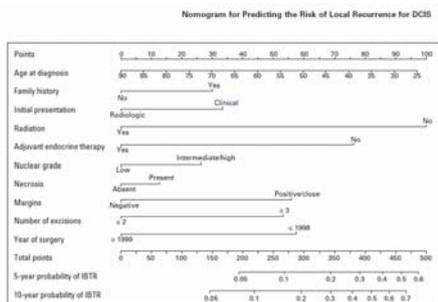
Causes of death

	No adjuvant treatment (n=544)	Tamoxifen (n=567)	Radiotherapy (n=267)	Radiotherapy and tamoxifen (n=316)	Total (n=1694)
Breast cancer	11 (2%)	19 (3%)	4 (1%)	5 (2%)	39 (2%)
Other cancer	14 (3%)	19 (3%)	10 (4%)	14 (4%)	57 (3%)
Cardiovascular	1 (0%)	3 (1%)	5 (2%)	3 (1%)	12 (1%)
Cerebrovascular	3 (1%)	1 (0%)	0	2 (1%)	6 (0%)
Thromboembolic	3 (1%)	1 (0%)	0	2 (1%)	6 (0%)
Other	20 (4%)	15 (3%)	7 (3%)	17 (5%)	59 (3%)
Total	52 (10%)	58 (10%)	26 (10%)	43 (14%)	179 (11%)

Lancet Oncol. 2010 Dec 8; 12(1): 21-29  
 Effect of tamoxifen and radiotherapy in women with locally excised ductal carcinoma in situ: long-term results from the UK/ANZ DCIS trial

## リスク評価

Nomogram for predicting the risk of local recurrence for DCIS



	RTのみ	RT+ET
5年再発率	5%	5%以下
10年再発率	8%	5%以下

Journal of Clinical Oncology, Aug 10 2010; ;Nomogram for Predicting the Risk of Local Recurrence After Breast-Conserving Surgery for Ductal Carcinoma In Situ

## 最終論告

- DCISの術後療法は放射線治療は必要
- ホルモン療法併用に関しては、OSに寄与せず
- 有害事象と経済的負担が伴う

よって

DCISの温存術後療法は、放射線治療のみが妥当